

こんにちは! 社協です!!

ふれあいネットワーク

2016

10月

No.136

特集 P2・3

住民主体の
地域づくりを進める!

第6回穴粟市地域福祉のつどい



ひ孫と
いっしょ

シリーズ 135

一宮町 須行名

安黒 義郎さん(93歳)

○ 義常くん(5歳)

○ 智瞭くん(2歳)

安黒 直裕さん・咲耶さん

■長男・二男

住民主体の地域づくりを進める!

第6回宍粟市地域福祉のつどい



自治会の福祉関係者や一般市民の方など230名の参加がありました
(たかのす東小学校体育館)

10月1日(土)千種町鷹巣たかすの新たな集落活性化の拠点「たかのす東小学校(旧千種東小学校)」において、「第6回 宍粟市地域福祉のつどい」を開催しました。
この「つどい」は、社協の使命である「地域福祉の推進」について、市民のみなさんと考えることを目的に、合併後2年に1回開催しています。
今号は、「地域福祉のつどい」について報告します。

ほっとけないを
ほっとかない宍粟に

今回のつどいでは、6月に策定した「第3次地域福祉推進計画(愛称・支え合いふくしプラン 28年度〜31年度)」の地域福祉目標「だれもが安心して暮らせるふくしのまちづくり」を「ほっとけない」をテーマに、これからの地域づくりについて参加者と共に考えました。

朗読ボランティアグループ「ふきのとう千種」による「絵本の朗読劇」で始まったつどいは、主催者挨拶のあと、福祉活動にご尽力いただいた団体等に感謝状が贈られ、来賓の福元晶三あきみつ宍粟市長から祝辞をいただきました。

そして、10月1日より全国一斉に始まった「赤い羽根共同募金運動」への呼びかけや新たな取り組みの提案を行いました。

住民主体ですすめる
地域づくりの実践

基調報告に入り、流通科学大
学前教授で第3次地域福祉推進



共同募金70周年記念顕彰として
23団体へ感謝状が贈られました



松澤先生

「我々の計画づくりが
みなさんの活動に役に立てる
よう、上手く活用ください」

計画策定委員会委員長の松澤賢治先生から、「市民や社協、行政・関係機関、そして町の様々な事業者がそれぞれの役割を発揮しながら、支え合い」を実践することが重要」と、支え合いふくしプランのねらいやポイントを分かりやすく説明いただきました。
フォーラムでは、松澤先生をコーディネーターに、住民主体の地域づくりに取り組んでいる3つの団体と本会事務局長から報告があり、実践内容や課題、これからの抱負などお話しいただきました。

つどいの
参加者の声

・ほっとけない、ほっとかない…私も地域に勇気をもって出かけていきたいと痛感しました(一宮町 女性 70歳代)
・鷹巣に来る機会が余りないので、この場所ですることは「つどい」の趣旨に合いとても良かった(山崎町 女性 40歳代)

表彰 (敬称略・順不同)

- < 社協労働者 > 2人
中石 幸代 高 勝子
- < 福祉活動功労者 > 3グループ
デフしそ 調理 4班
いなほの会
- < 共同募金 70周年記念顕彰
感謝状 > 23団体
- 株式会社一宮電機
- 八幡建設株式会社
- 兵庫西農業協同組合 山崎支店
- 医療法人社団山中医院
- ハリマ農業協同組合
- 株式会社経営開発センター
- 衣笠木材株式会社
- 有限会社森本運輸
- ハチ食品株式会社 兵庫工場
- 株式会社栗山化成工業所
普門寺
- 株式会社柴原製材所
- 坂越歯科医院
- 株式会社播磨いちのみや
- 株式会社グリーン興産
- アンリ薬局
- 医療法人社団広田医院
- 損保の糸素麺組合 一宮支部
- 沢田新聞店
- 垣内歯科医院
- 医療法人社団翠輝会
- 有限会社千種ガスセンター
- 第一電子株式会社

おふくろ工房波賀・のほら
とうじひろこ
田路 浩子さん (波賀)

○平成27年11月に旧野尻幼稚園の園舎を改装し、レストランをオープンしました。地域のおばちゃん10人で運営しています。今までなかった地域の拠点で、「ここにきたらいろんな人に出会える」と常連さんも増えています。

五十波福祉連絡会
「おふくろ工房波賀」代表
きしもといさよ
岸本 功さん (山崎)

○平成25年12月に結成のご近所ボランティアグループです。23人のメンバーが「お助け隊」として、日常生活の支援や見守り活動を実施しています。これからの課題は気軽に「助けて」と言える関係づくりです。



フォーラム

鷹巣活性化委員会
事務局長
ふじわらまこと
藤原 誠さん (千種)

○平成24年4月に委員会を結成。閉校した千種東小学校の空校舎をふれあい食堂や宿泊施設として運営しています。鷹巣にはまだまだほっとけないところがたくさんあります。これからもほっとかない心を大切にしながら集落が元気になる活動を進めていきます。

宍粟市社会福祉協議会
可藤 和成 事務局長
かとうかずなり

○地域に向き、人と出会い、笑ったり、叱咤を受けながら、福祉課題をつかみ地域福祉を推進します。社協職員は「こんにちには！社協です!!」の看板を背負って走り回りますので、みなさんよろしくお願います。



つどい終了後、お茶と焼きたてピザが、地元鷹巣の協力により振る舞われました(たかのす東小学校BBQハウス)

宣言案を採択

これらの議論を経て、最後に「第6回宍粟市地域福祉のつどい宣言(下に掲載)」を参加者全員で採択しました。

今回のつどいにご協力いただいた、鷹巣自治会や鷹巣活性化委員会をはじめ、OHPしそ(要約筆記)、宍粟手話サークル連絡会、朗読グループ、市内福祉作業所のみなさん、本当にありがとうございました。

(地域支援課長 波多野好則)

第6回宍粟市

地域福祉のつどい

宣言

1. 「自治会福祉連絡会」を中心に、福祉でつながる支え合いの地域づくりを進めましょう。
 2. 見守りや支援を必要とする人たちを支える「近所ボランティア活動」を広げましょう。
 3. 地域包括ケアシステムを宍粟市で構築していくために、市民、ボランティア、NPO団体、保健・医療・福祉・介護関係者、行政、社協が共に手をつなぎましょう。
 4. 赤い羽根共同募金や善意銀行預託金など、地域福祉を進める活動財源をみんなで創り出しましょう。
- 平成28年10月1日
第6回宍粟市
地域福祉のつどい

つどいの参加者の声

・3事例とも、とても活動的で元気で楽しそうで…感動しました。何か始めなくてはと思いました(一宮町 女性 50歳代)
・地域住民の活動を助けて下さっているのが社協さんです。今後とも応援お願いします(波賀町 女性 70歳代)

地域で「長寿おめでとう」

塩田自治会敬老会

9月25日(日) 塩田公民館で「塩田敬老会」が開催され、75歳以上の招待者20名が出席されました。

この催しは、自治会役員、女性会、民生委員、福祉委員が中心となり、一日ゆっくり楽しんでいただくようと準備されました。

土井豊治自治会長は、「地域みんなで長寿をお祝いできれば」と、一人ひとりに声をかけられていました。

また、塩田子ども会の杉下菜々さん(山崎西小6年)が「おじいちゃんおばあちゃん」と挨拶すると笑顔になれます。これからも元気で私たちを見守って応援してください」とお祝いの作文を披露しました。

出席者のみなさんは、高下駐在所の千北涼輔巡查長から交通安全の講話や郁踊会の舞踊も楽しまれ、「顔なじみの人とおしゃべりしな



児童の作文に笑顔のみなさん(塩田公民館)

がらお祝いしてもらって、ありがたい」と話され、和やかに過ごされました。山崎町内では、それぞれ各地区や自治会などで地域の特色を生かし、趣向を凝らした催しが開催され、住民同士のつながりをより一層感じる敬老会となっています。

(山崎支部 山本めぐみ)

地域一丸で伝統の継承を

横山チャンチャコ踊り

室町時代の風習を今に受け継ぐ「横山チャンチャコ踊り」。

9月17日(土)、華やかな着物を身にまとった8人の小中学生が、鐘の音に合わせて横山神社など地区内4か所で踊りを奉納しました。

その歴史は約六〇〇年と県下でも最も古いものとされており、市内では横山神社のほか数社でも奉納されています。

年々子どもの減少により踊り子が減る中で、今年は自治会の働きかけもあり、地元出身者の子どもも参加しました。

踊り子は、8月中旬から地元住民の指導のもと、休日にも練習を重ねてこの日に臨みました。

自治会長の和田由紀夫さんは「横山から出た人にも



町外からのカメラマンも多く、大変な賑わいです(横山神社)

協力してもらった。外の人らとも交流できるからやるだけ続けたいなあ。言い伝えでは村が残り3軒になるまで続けると誓ったそうや」と話されました。自治会長の言葉からも、誇りある歴史と伝統を次世代に繋ごうという思いが伺えました。これからも、横山で育ってきた住民が一つとなってこの踊りが継承されることを期待しています。

(二宮支部 岡崎章訓)

や・い・は・ち トピックス

みんなが集まれる場づくりから

日ノ原・音水「住民学習会」

日ノ原・音水自治会は波賀町北部引原ダムの南に位置し、日ノ原16世帯（高齢化率46%）、音水5世帯（高齢化率80%）の小さな集落です。

9月12日（月）、二地区合同の長源寺清掃作業日に合わせ学習会が行われ、日ノ原公民館に14人が集まりました。

学習会では、「介護保険制度の改正とこれから必要になる地域活動」をテーマに、社協の生活支援コーディネーターが説明を行い、人口減少や高齢化が進む北部域で、今後どのような支え合いが必要なのか考えました。

坂口市三郎自治会長（日ノ原）は「今は元気だから大丈夫ではなく、これからの地域づくりを考えないと。不安も多いですが、まずはみんなが集まれる場づくりから始められれば」と話されました。



「社協からこうやって来てもらうとありがたいですよ」（日ノ原公民館）

学習会を通じて、支え合い活動につながるための具体的な取り組みについて結論は出ませんでしたが、社協としてこのような機会を継続的に設けていくことの必要性を強く感じました。

これからもみなさんが住み慣れた地域で安心して暮らし続けられるよう、私たち社協職員はいつしよに考え、いつしよに取り組んでいきます。

（波賀支部 田中祥仁）

ちよっと寄って行きいな

自宅を開放した「田口喫茶」

千種町室の田口みち子さん（92歳）宅に毎日、ご近所の人が集まっています。

この集まりは、「田口喫茶」と呼ばれ、みち子さんが近所の人を見かけると「ちよっと寄って行きいな」と声掛けをしていたのが始まりで、もう10年以上続いています。

9月21日（水）、自宅を訪れると、縁側でお茶を飲みながら楽しそうな会話が聞こえてきました。

「週に5日は来とるで。1日顔を見んかったらどないしとるんやろ」と、お隣の田口スミエさん（90歳）が話されると、「いつの間にか田口喫茶と呼ばれるようになったんですよ。いつでも寄ってちよっくだい」とみち子さんが笑顔で話してくれました。



笑い声が止まりません（田口みち子さんは左から2番目）

「ご近所のみなさんが気軽に集まれる、そこに行く顔なじみの方がいて楽しいひと時が過ごせる…田口喫茶はそんな温かい場所です。」

このような自宅を開放した集まりの場がみなさんの地域にも出来たらいいですね。

（千種支部 横山洋子）

はが

ちくさ

災害ボランティア養成講座 中間レポート “災害時にも強い地域づくり”



鳥取県西部地震展示交流センター

10月7日(金)、災害ボランティア養成講座の2回目として、鳥取県日野町にある「鳥取県西部地震展示交流センター」を訪れました。

当日は、日野ボランティア・ネットワークの山下弘彦さんから、平成12年に発生した鳥取県西部地震当時の振り返りと災害にも強い地域づくりについてお話いただきました。

受講者からは、「災害を風化させない活動が大切」「災害を忘れてはいけない」といった声が聞かれ、新たな気づきが得られたようです。

第3回(最終回)は10月22日(土)、宍粟防災センターを会場に、東日本大震災・熊本地震での被災地支援活動の報告から、災害時にできる助け合いについて学びます。

(本部・一宮支部 三宅あゆみ)

第11回～災害時に何ができる?～ やまさきボランティアフェスタ

10/29(土)
午前10時30分
～午後2時

ボランティアグループ、
福祉作業所、
障がい者施設の活動をPR!

今年「災害時に何ができる?～体験しよう、支え合う心を育てよう～」をテーマに、地震体験や防災に関する話、防災訓練を兼ねた芋煮の炊き出し等を行います。ご家族、お友達など、お誘いあわせのうえお越しください。

…<各コーナー>…

- ★炊き出し
(芋煮、炊き込みご飯)
- ★食べ物(綿菓子、ポップコーン、ケーキ 他)
- ★遊び ★作業所
- ★体験(地震体験、防災講話、朗読、人形劇)



昨年度のフェスタの様子

会場：宍粟防災センター
主催：山崎ボランティア連絡会
△問合せ：山崎支部 ☎ 62-5530

傾聴ボランティアに 参加しませんか



傾聴ボランティア「ロバの耳」

「ロバの耳」は、相手の思いや気持ちに共感しながら耳を傾け、話し相手となるボランティアです。メンバーは12人で、個人のお宅や福祉施設などを訪問し活動されています。

利用者みなさんからは、「いつも話を聴いてくれてうれしい」といった声が聞かれ、帰り際には「もう帰るん?また来てな」と、この機会を楽しみにされています。

「聴く」ことでできる社会貢献、傾聴ボランティアを、あなたも始めませんか。活動に興味のある方は山崎支部までご連絡ください。

主な活動先 ・やまさき白寿園(山崎町)
(月1回) ・やすらぎ介護センター(一宮町)
△問合せ 山崎支部 ☎ 62-5530

にこにこクラブメンバー募集!!



波賀支部で活動する配食ボランティア「にこにこクラブ」からメンバー募集のお知らせです。

にこにこクラブは現在21人のメンバーで波賀町内の利用者みなさんへお弁当を届けています。

活動は火曜日と金曜日の1時間程度、活動いただくみなさんの都合に合わせて月1回からでも活動いただけます。

男女問いません。退職世代の方々大歓迎!!
ぜひ私たちといっしょに活動しましょう!

【活動日】
・火曜日 午前10時45分～11時30分
・金曜日 午後3時45分～4時30分
△問合せ 波賀支部 ☎ 75-3631